

校内研修計画

1 研究主題

子どもたちが主体的に参加できる“委ねる”授業実践の工夫 ～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを通して～

2 主題設定の理由

近年、教育現場では、予測困難な社会を生き抜くための資質・能力を育成することが求められており、ICT活用を通して、情報活用能力を育成し、個別最適な学びや協働的な学びを実現することが求められています。また、本県では、令和7年度から教育の重点事項として「自立した学習者の育成」をあげられています。

本校の実情は、子どもたちの学力に二極化の傾向が見られたり、基礎的な学習内容の定着に課題を抱える子どもたちが比較的多くなっています。

昨年の全国学力学習状況調査の正答数の分布表では、6年生の算数では、二極化が見られます。また、他の学年を見ると学習の定着に課題の見られる児童の割合が沖縄県の平均分布に比べて多いのが特徴です。

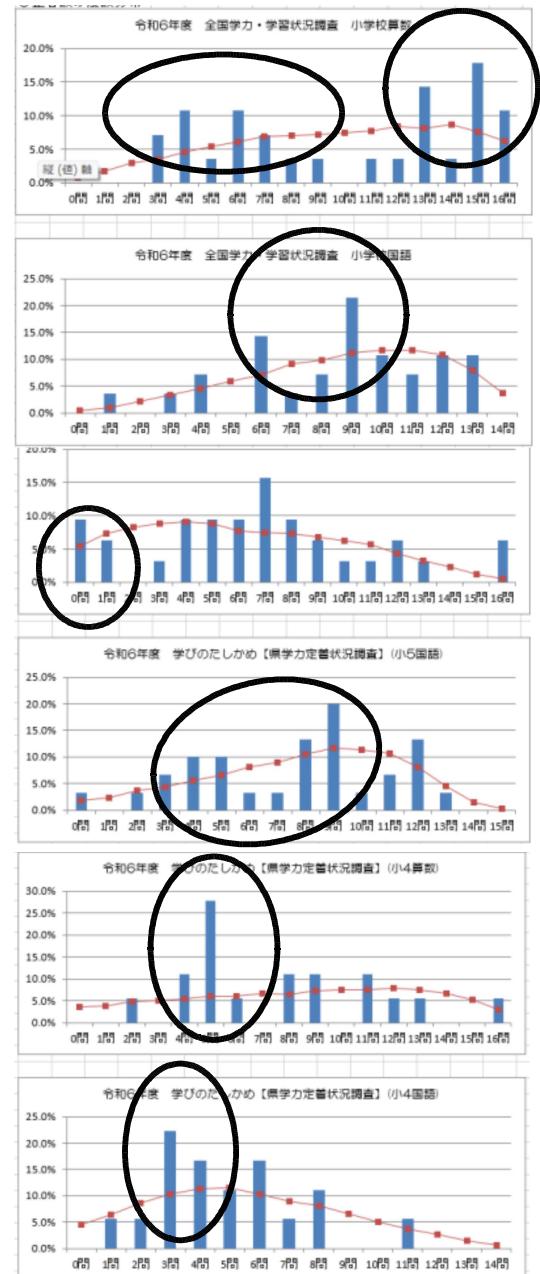
百名小学校の魅力ある学校づくりのレポートからも先生方の課題に対しての方策として、「子どもたちが主体的に探求する授業に改善の課題がある。(4年)」「友だちとの学び合いの時間を多くする。意欲的に授業に参加できるように魅力ある授業をする。(5年)」という意見が見られます。

普段の授業からも、授業に対して意欲的でなかつたり、分からぬことを先生に教えてもらうまでずっと待っていたりしている児童の姿も少なくありません。

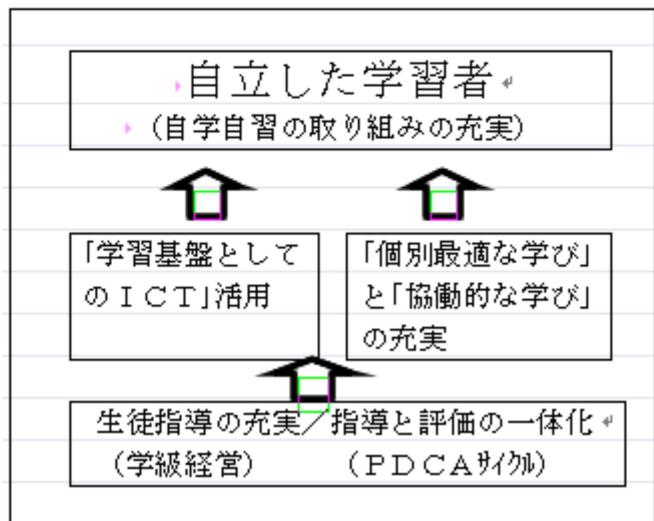
これまでの百名小の授業研究では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業に取り組んできました。「主体的・対話的で深い学びの姿」をはっきりさせつつ、そのための手立てや発問、見取りを授業につなげること、具体物操作などを重点的に取り組んできて、学習活動の充実を図ってきました。

しかし、「子どもたちが自ら課題を発見し、他者と協働しながらに解決していく態度の育成」や、「ICTを活用して情報活用能力を育成し、個別最適な学びや協働的な学びを実現すること」という点では課題が残っています。

沖縄県学力向上推進施策「自立した学習者」育成プロジェクトでは、自立した学習者とは「目的や状況に応じて、自分に合った学び方を工夫したり、学習意欲を自ら引き出したりして学習できるような児童生徒」としています。その中で、4つの重点取り組みとして、「学習基盤としてのICT」の活用、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、「指導と評価の一体化」の実現、「自学自習力」を育む取り組みの充実」をあげています。



そこで、百名小学校では、学級経営（生徒指導の充実）・指導と評価の一体化（P D C Aサイクル）を土台にして、教師は「学習基盤としての I C T」探究のサイクル（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の学習過程の確立することと、個別最適な学び・協働的な学びを充実するために、教材や学習時間、学習方法等を柔軟に提供し、児童に“委ねる”場面を意図的に作り出し、児童が自ら学び方を決めたり、他者に聞いたり、どのように取り組むのか自己調整しながら課題解決ができるようにしていくことで、児童の学び方や学びに対する認識を変容させ、自立した学習の育成（自学自習の充実）を図っていきたい。



3 研究の仮説

日常的に I C T 端末を活用し、児童に“委ねる”場面を作り出し、指導の個別化・学習の個性化を図ることで、児童が自ら課題を発見し、他者と協働して解決していく態度が身につき、自立した学習者へと育っていくことができるであろう。

4 研究方針

- (1) 研究については、系統性を重視し、職員の共通理解と協働体制のもとに推進する。
また、校内研推進委員会（校長・教頭・学推・研究）を設置し、企画、立案、推進を行う。
- (2) 日々の実践で P D C A サイクルを意識して、授業に取り組む。
- (3) 隣学年で、教科を選定し、研究を進め仮説の検証に努める。
- (4) 授業研究は全教科を対象とし、教育活動全般を通して行う。
- (5) 一人一授業の実施を基本とする（原則 2 学期間で実施）。
- (6) 隣学年（低中高）で I C T 推進リーダーを決めて、隣学年会等で実践情報共有する。
- (7) 授業研究会の持ち方は、代表授業 1 回を実施し、指導主事を招聘する。
- (8) 道徳の授業は、授業参観で確実に実施する。
- (9) 研究授業は、月曜日の 5 校時に位置づけるとするが、隣学年授業研究会の為、関係者で日時を調整して決めてよい。但し、校長、教頭が参加できる日とする。
- (10) 代表授業の授業研究会は、ワークショップ型で行う。
- (11) 学力向上推進との関連を保ちながら進める。全国学力・学習状況調査の全国平均正答率以上児童質問紙の肯定的回答、県到達度調査の平均正答率以上の達成等を指標の 1 つとする。
- (12) 研修内容については、原則として年間研修計画に基づいて実施する。

5 研究内容

(1) I C T の活用

- ①主体的・対話的で深い学びを促す学習環境の構築:
 - ・児童が自由に意見交換や協働学習ができるよう、ICTを活用した学習環境を整備する。
☆（環境整備、ルールの明確化、保管場所の指定、座席配置等を行う）
 - ・児童が主体的に学びに向かい、互いに学び合う活動を設定する。
☆（児童が見通しを持ち、自己調整しながら、他者と関わるような授業デザインを設定する）

② I C Tを活用した学習コンテンツの開発:

- ・児童の学習進度や理解度に合わせて、個別に最適化された学習コンテンツを開発する。
☆ (Googleドキュメント、スプレッドシート、スライド、クラスルーム、フォーム、フィグジヤムなどを中心に活用できそうな場面を作りだし、取り組んでいく。eライブラリを活用して理解の定着を図る)
- ・多様な学習ツールや教材を活用し、児童の興味・関心を高める。
☆ (思考ツールの使い方の指導、タイピング練習、基礎的なタブレットの使い方の確認をする)

③個別最適な学びを支援する指導方法の確立:

- ・学習履歴や進捗データを活用し、児童の学習状況を的確に把握する。
☆ (eライブラリの学習履歴や進捗の確認、スプレッドシート等を活用したまとめやふり返り、学習進捗の一括管理と可視化)
- ・習熟度別学習や個別指導など、多様な指導方法を組み合わせる。
☆ (させっぱなしにせず、チェックポイントを設けて、児童の出来具合を見取り、学習状況を把握しながら進め、適宜丁寧な指導を行う) **※これが重要**
- ・I C T支援員や研究機関との連携
☆ (I C T支援員にタブレット活用のサポートを受けたり、職員の研修として外部機関連携を図り、スキルアップを目指す)

(2)個別最適な学び

①指導の個別化

- ・子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。
☆ (時間配分の目安や手順、ポイント、教材などを示す。)

②学習の個性化

- ・どの子も自分の興味関心にあった学習を行ったり、自分にあったアウトプットの方法で表現したりする。

☆(文章中心、図と文の組み合わせ、思考ツールの活用など)

(3)協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。

☆ (他者と交流【共同編集・参照】しながら活動できるようにしつつ、困ったときには他者に聞きながら、課題解決を図っていく授業デザインを目指す。)

(4)委ねる学び

①自己決定学習

- ・従来の学ぶ内容が予め決められていて全員が同じ課題、同じタイミングで学ぶスタイルから、子どもたちひとり一人の興味・関心や学習スタイルが最大限許容され、発揮できる学習スタイル。
(個別最適な学びと同義で解釈し、指導の個別化を図り、学習の個性化の充実を図る)

②自己選択の機会を増やす

- ・児童は、指定された学習課題をどのような順番で進めていくか自由度を高めて取り組んでいく。

③子どもに委ねる際のポイント

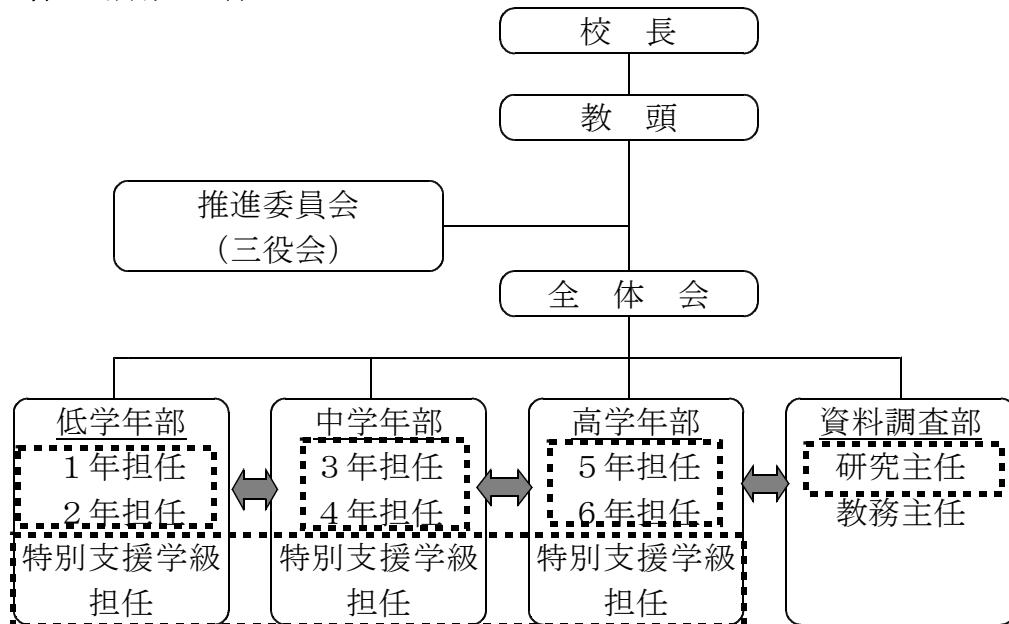
- ・教師は学習の深まり広がりについて教材研究し、何が起こりそうか把握しておく必要がある。特に学びの困難が予想される場合は、豊かな学びの実現向けた対応策と学習環境整備

が必要となる。教材研究によって丁寧な授業構想ができあがれば、活動も充実する

引用 那須正裕 上智大学教授

https://www.kobun.co.jp/Portals/0/resource/dataroom/magazine/dl/tnaviEdu13_01.pdf

6 研究組織と活動内容



(1) 校長・教頭

- ・全体の統括
- ・指導助言

(2) 推進委員会 校長・教頭・教務主任（学推主任）・研究主任

- ・研究全体の構想
- ・研究内容についての提案
- ・全体研究会の立案、提案
- ・資料調査部と実態調査部との連絡調整
- ・研究成果と課題のまとめ

(3) 全体会

- ・研究主題に関する理論研究と共通理解
- ・児童の実態把握
- ・指導案の事前検討
- ・授業研究、反省、考察

※研究会の司会は研究主任が行い、記録は授業をした学年分担する。

(4) 隣学年部会

- ・主題に迫った理論研究、教材研究の推進
- ・授業研究の計画と実践
- ・授業研究、資料収集、指導案の作成、事前検討
- ・授業研究のまとめ
- ・I.C.T活用の情報交換、効果的な活用の共有※上の組織図に関連

(5) 資料調査部

- ・資料の整理と保管
- ・授業研究会の記録（写真）
- ・先進校の実践資料の収集

7 校内研修の日程（予定）

学期	月	日	曜	研究内容予定	担当・参加者
一学期	4	2	水	校内研実施の共通理解 校内研修の日程等	研究主任
		3	木	エピペン講習会	
	28	月		先進校の取り組み（事例紹介）	
	5	19	月	（講師を招いて：予定）ICTの活用研修	研究主任 講師
		26	月	心肺蘇生研修会	
	6	16	月	全体研① 6年 理科「」	学級担任 研究主任
夏休み	8	27	水	講習 構成的グループエンカウンター	研究主任
		28	木	2学期の取り組みについての共通理解、 夏季研修の情報共有	指導主事 全職員
二学期	9	8	月	全体研② 年〇〇「単元」	研究主任 全職員
		17	金	全体研③ 年〇〇「単元」	研究主任 全職員
	10	28	月	全体研④ 年〇〇「単元」	研究主任 全職員
	11	10	月	全体研⑤ 年〇〇「単元」	研究主任 全職員
	12	25	木	3学期の研修日程と内容確認 個々の授業実践のまとめ等	全職員
三学期	1	20	火	公開授業	全職員
	2	24	火	次年度の校内研究テーマ・方針決定	研究主任
	3	23	月	分析・考察と対応策 本年度の校内研修まとめ	研究主任

※島尻教育事務所主事要請は、代表授業の1回です。